

令和 6 年度 県立取手第一高等学校自己評価表						
目指す学校像	・本校の校訓（至誠・醇厚・自強）の精神を礎に、取一精神「力耕不吾欺」の涵養を図りながら、生徒が自ら学び考える力を育み、時代の変化に敏感に対応し、国際社会・高度情報化社会に適応できる能力の育成に努める。 ・総合学科の特色を活かしたキャリア教育の充実と主体的な学びの実践による多様な進路希望の実現を目指し、人間性豊かで活力のある人間育成に努める。生徒が自ら学び自ら考える力を育み、時代の変化に敏感に対応し、国際化。					
「三つの方針」 （スクール・ポリシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 （グラデュエーション・ポリシー）	① 本校の校訓（至誠・醇厚・自強）の精神を礎に、取手一高精神「力耕不吾欺（りきこうわれをあざむかず）」を実践できる人材 ② 主体的に学び、時代の変化やグローバル社会・高度情報化社会に対応できる人材 ③ 豊かな人間性を持ち、主体的に社会に貢献できる人材				
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 （カリキュラム・ポリシー）	① 総合学科の特色を生かし、「産業社会と人間」の授業を核とした横断的・総合的な学習及び地域と連携した学習の実施によるキャリア教育の充実 ② 充実した情報教育と国際理解教育による、グローバル社会に対応できる人材の育成 ③ 生徒の多様な進路希望に対応した教育課程による、就職から大学進学までの幅広い進路希望の実現				
	「入学者の受け入れに関する方針」 （アドミッション・ポリシー）	① 主体的に学び、自分の進路実現を目指し、地道に努力できる生徒 ② 自らのスキルアップを目指し、多様な資格取得に向けて努力できる生徒 ③ 豊かに人間性を持ち積極的に奉仕活動に取り組める生徒 ④ 自己理解に努め、総合学科のそれぞれの分野に興味を持ち、深く探究しようとする意欲のある生徒				
昨年度の成果と課題		重点項目	重 点 目 標		達成状況	
・総合学科としての特色である「産業社会と人間」の授業を核とし、キャリア教育を踏まえた総合的な学習指導体制は確立している。しかしながら、探究的な学びにまでは繋がらず、「産業社会と人間」と「総合的な探究の時間」の在り方について今後検討する必要がある。 ・生徒の選択分野に応じ、各種検定においてより上級の資格をとらせ、その資格を生かした進路実現を図れるかが課題である。		1 主体的な学習習慣の確立	①生徒自ら課題を発見・設定し、課題の解決に必要な知識及び技能を身につけるため学習習慣の確立および定着を図る。		B	
		2 進路希望の実現と総合学科の特色を生かした進路指導体制の確立	②総合学科の特色を活かし、生徒の興味関心を軸とし、3年間を見通した段階的な進路指導体制の構築と、進路実現のための個別面談を適時適切に実施する。 ③推薦入試や総合型選抜を見据えた早い段階からの小論文・面接指導に加え、課外や模擬試験を活用し、一般入試にも耐えうるよう基礎学力の向上を図る。		A	
・思考力・判断力・表現力の育成を目指した質の高い授業の展開力と、各種検定や共通テストに対応できる指導力を磨く教員研修の充実が必要がある。 ・3年間を見据えて、段階的・継続的な進路指導体制を一層強化し、生徒が希望する多様な進路選択に対応する必要がある。		3 豊かな心を育む教育推進	④基本的学習習慣の確立を目指しつつ、基本的学習習慣の確立を目指しつつ、様々な教育活動の中で人権を意識させ、生徒自ら他者や社会問題について考える機会を創出する。 ⑤様々な状況に適応できる自己指導能力を育成するとともに、教育相談体制を一層充実させ、いじめ等の未然防止・早期発見早期対応に努める。 ⑥生徒の実態（不登校・特別支援・不適応等）に応じた支援についてチームで考え、年次、生徒指導部、教育相談部及び外部機関等関係者の連携を密にして生徒の課題解決を援助する。		A	
		4 ポートフォリオを活用したメタ認知能力の育成及び生徒の主体的活動の充実	⑦ポートフォリオを活用し自身の活動を振り返り、自身の変容や成長を客観的に自己評価できるようにする ⑧生徒自らが課題を見つけ、問題解決できるよう生徒の自発的な活動をサポートする。 ⑨部活動や学校行事も含めたすべての活動において、生徒の主体的な参加を促し、学校生活の活性化を図る。		A	
・新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類へと移行し、生徒の活動や学校行事がもとにもどつつある。生徒会や行事を企画運営する生徒たちは集団の中での存在感、達成感が得られている。また、ボランティア活動に参加する生徒が多い。今後は、状況に応じて臨機応変に対応し、所属する集団での課題を見つけ、自らが問題解決できるよう生徒の自発的な活動を促していく必要がある。 ・教員間のコミュニケーションが活発になったことで、業務の分担や軽減が図られ、効果的に業務をこなそうとする機運が高まっている。会議、委員会等を精選する中で、いかに確実に職員間で情報を共有していくことができるかが課題である。		5働き方改革の推進	⑩ICT機器を活用し、効率的に職務を遂行することによって、教職員が事務的な仕事量を減らし、生徒とかかわる時間や自己研鑽の時間を増やす。 ⑪教材の共有化・ライブラリー化を進める。 ⑫部活動においては、短時間で効率的な練習計画を立て、実践する。		B	
		6 評価手法の研究と授業改善を通じた確かな学力の育成	⑬授業改善推進プロジェクトを通して、主体的、対話的で深い学びの視点から、思考力・判断力・表現力の育成を目指した質の高い授業を研究し実践する。 ⑭ユニバーサルデザインの視点に立った全ての生徒にとってわかりやすい授業の展開を実践する。 ⑮観点別評価方法については、不断に見直し、評価を今後の授業改善やより効果的な指導法に活かせるようにする。 ⑯生徒による授業評価における授業満足度の平均値3.3		A	
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策		関連項目	評価	次年度（学期）への 主な課題
教科指導 （全体）	・ICT機器の活用を活発化し、わかりやすく、生徒が楽しく参加できる授業を展開する。	総合学科として各分野の目標に沿った授業計画を立案し、その目標を達成できるように授業実施に努める。		①③⑬	B	・学習端末等ICT機器の活用が浸透し、わかり易い授業が展開されている。学習評価を意識した授業改善が進んでいるが、主体的に学ぶ姿勢、基礎学力の定着という点では課題が残る。 ・探究活動において課題発見、解決する能力等が育っておりプレゼンテーション能力に向上が見られる。
	・生徒の学習習慣の確率、及び基礎力・応用力の伸長を図る。	電子黒板・タブレット端末等を活用し、生徒の思考力・判断力・表現力を育成し、主体的に学べるよう授業改善に努める。 生徒を様々な角度から評価し、生徒自身も自らの学びを振り返れるような学習評価を実施する。		⑨⑩⑬ ⑦⑮	A B	
	・自らの学力把握及び課題発見・設定を行い、多様な方法で課題解決する能力を養う。	総合学科の特色を活かし、自己のキャリア形成を考慮した選択科目の履修ができるよう、生徒の支援を行う。 面談や観察を通して生徒一人一人を把握し、個々の生徒の能力の健全な成長に努める。		②⑧ ①②	A A	

評価項目		具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	関連項目	評 価		次年度（学期）への 主な課題		
教科	国語	基礎学力の向上を図るとともに、国語への興味・関心を高める。	分野の目標に沿った授業計画を立案し、副教材やプリント、ICT機器を積極的に活用して国語に関する基礎知識と応用力を身につける。	①③	A	A	・ ICT活用の機会が増えてきたが、教科内外で利用方法を共有することで、生徒の思考を促すより分かりやすい授業展開を目指したい。 ・ 全体的な基礎学力向上のため、知識の習得も丁寧に対応し、漢字検定受験者増加を目指す。 ・ 成績上位層指導にあたり、模擬試験や大学入試問題を教科内で検討・共有していきたい。 ・ 総合的な探究の時間などとも連携し、図書館の日常的な利用を促したい。		
			資格検定（漢字検定）の取得者数を昨年度比10%増を目指す。	①	B				
			推薦入試や総合型選抜を見据えた早い段階からの小論文指導課外や模擬試験を活用し、一般入試にも耐えうよう学力の向上を図る。	③	B				
		生徒個々の進路希望に応じた指導を展開する。	授業観察や面談によって生徒の状況を把握し、個々の能力の伸長に努める。	①②	A				
			生徒の状況に沿った課外授業を実施する。	①⑦	A				
			図書館の利用推進を行うとともに、書物や新聞等の日常的利用を促す。	①	B				
		授業改善を通した確かな学力を育成する。	生徒による授業評価における授業満足度の向上を目指す。	⑬	A				
			授業観察を積極に行うとともに、生徒自身が自らの学びを振り返る機会を設ける。	⑮	A				
	地歴公民	基礎学力を定着させ、その知識を活用して自らの考えを表現する歴史的・地理的思考力、公民的資質を養う	タブレット・電子黒板を活用し、グラフや視聴覚資料等を提示することにより、課題探究型の授業を実施する。	①	A	A	日々の授業において、ICTの活用や、多角的な授業展開ができた。 次年度に向けて、共通テストや模擬試験の意義を再確認し、そこに向けて授業展開を模索する。教科の特性上、単年では完結できない科目がほとんどであるため、より一層の計画性が必要である。		
			現代の国際的・国内の諸問題について授業内容に盛り込み、歴史的・地理的な因果関係を考えさせる。	③	A				
		共通テスト・私立大学の入試、一般教養問題等に対応できる授業を展開する。	それぞれの出題傾向を把握し、それに対応した課外の実施・定期考査の問題の精選を行う。	①	B				
			模擬試験を通し、多様な問題に対処する力をつけるとともに、事前・事後指導を徹底し、その力を定着させる。	①③	B				
	数学	基礎学力の定着及び数学的思考力の涵養	基礎学力の定着のため、基礎問題の反復練習やグループワークによる言語活動を行う。	①③	A	A	・ 新学習指導要領や新テストに向けての理解と準備を進める。 ・ 基礎学力の定着がなされていない生徒へのきめ細やかな指導を行う。 ・ 模試・共通テスト・大学入試等に対応できる応用力を育成する。		
			生徒の理解度や進路希望に合わせた授業展開を継続し、個々に応じた指導を通して確かな学力を育む。	①②③	A				
			質問しやすい環境作りを行うと共に、生徒一人ひとりの学力の伸長に努め、補習や課外を実施するなど学力に応じた個別指導を実施する。	①②⑮	A				
		家庭学習習慣の定着	数学に対する興味・関心を高められるような授業を展開し、各々の進路を授業の中でも意識させていくことで自ら学ぶ意欲を持てるよう働きかける。	①②⑬⑮⑮	A				
			毎週末や長期休業中に課題を与え、予習復習の習慣を身に付けさせる。	①②③⑮⑮	A				
			定期考査だけでなく課題テストを定期的に実施し、普段から学習する意欲をもたせる。	②③	B				
		模擬試験・一般入試に対応した指導	教育課程や受験指導の在り方を教科内で吟味し、3年間を見通した指導のシステムを検討していく。	①②③⑬⑮	B				
			模擬試験や共通テストレベルの問題を積極的に取り入れ、授業・定期テストと模擬試験・入試問題とのギャップを埋められるようにする。	①②③⑬⑮	B				
理科		科学的な事象・現象について関心や探究心を高める。	演示実験等の実施回数を増やし、科学的興味関心を育成する。	①③	B			A	・ 課題研究や実験、実習の機会を確保する ・ 生徒の思考力、判断力、表現力を高められるような探究型の授業を実施する。 ・ 問題演習を行い、知識の定着に努める ・ 教員同士の授業観察を積極に行い、授業の改善を図る。
			身近なものを例に出し、授業内容との関連付けを行う。	①③	A				
	観察が困難なもの等については、CGや映像資料を活用する。		⑩⑪	A					
	科学的に探究する能力と態度を育てる。	観察や実験を積極的にに行い、レポートの考察の方法について指導する。	③⑬	B					
		課題研究などを行い、自ら課題を見つけ探求させる。	①③	A					
		授業中の発問を工夫し、思考力を高める。	①	A					
	大学入試レベルの学力を身につけさせる。	思考力・判断力・表現力を問う内容を取り扱い、共通テストに対応する力を身に付けさせる。	①⑧⑬	A					
		入試問題の研究を行い、出題傾向に関する情報を蓄積し、学習効果の向上に努める。	③⑪	A					
		教員研修や教員相互の授業参観を行い、授業の改善を図り、生徒の実力向上につなげる。	⑪⑬⑮	B					
※評価基準 A：大変よくできた。 B：よくできた。 C：やや不十分。 D：不十分									

評価項目		具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	関連項目	評価		次年度（学期）への 主な課題			
教科	保健 体育	健康に対する意識を向上させる。	健康に対する正しい知識を身につける。	①②	A	A	ICTの効果的な活用により、新しい体育学習の在り方を考えていく必要がある。 ICTを授業の中でうまく取り入れることで、スポーツや保健に対する新しい価値観を育てることができる考える。 保健に関しては、現代の保健課題を積極的に取り入れ、授業とリンクさせながら問題解決能力を育むなど、新しい授業展開をしていくことを課題としたい。			
			グループ学習を通して価値観を広げる。	①②	B					
			自己実現に向けて、ライフ・スキルの向上を図る。	①⑦	B					
		体力を向上させる。	新体力テストのデータを活用し、計画的に体力の向上を図る。	①	B					
			体づくり・体ほぐしを授業内で効率的に取り入れ、継続して行う。	①	B					
			測定・評価基準を確立し、生徒が目標を持って取り組めるように指導・援助を行う。	①	A					
		自主的・主体的に取り組み活発な雰囲気 で活動するとともに、集団行動のマナーを身 につけさせる。	ルールや服装の遵守・準備片付けの協力・大きい声での挨拶の励行等を指導し、積極的に取り組む姿勢を育てる。	①⑦	A					
			声かけなどのコミュニケーションを通して、互いに尊重しあう態度を養い、協調性の向上を図る。	①⑦	A					
			体育委員などリーダーシップをとれる生徒を育成し、生徒の自主性・主体性を育てる指導をする。	①⑦	A					
			施設・用具を大切に扱う態度を身に付けさせる。	①⑦	A					
		音楽	音楽を形づくっている要素を知覚し、それ らの働きを感じて演奏、表現活動を行 う。	さまざまな形態や時代の音楽に関心を持ち、主体的に表現活動をする。	①			A	A	次年度はタブレットを使用した効率のよい授業展開を目指すしたい。
				リズム、旋律や強弱などの形づくっている要素を知覚し、それらが生み出す音楽の効果を感じ、表現の工夫ができるようにする。	①			A		
	音楽を形づくっている要素を知覚し、それ らの働きを感じて演奏、表現活動を行 う。		アンサンブル活動の中で、互いに協力し合い音楽を作り上げる喜びを味わう。	①	A					
			世界の諸民族や日本の伝統音楽に対する理解を深め、自分なりの観点をもって音楽のよさや美しさを味わう。	①	B					
	美術	作品制作、鑑賞を通して観察力や創造力を 高め、自己の良さや個性を発見する。	鉛筆、絵具などの使い方を覚え、デザインに関する知識、美術表現の基礎を学ぶ。	①	A	A	次年度はインターネット環境が整うので、液晶テレビを使った鑑賞研究を充実させた い。			
			作品を制作、完成することにより創造する楽しさ、達成する喜びを味わわせる。	①	A					
			自身でコンセプトを考え、制作を行うことで、自己表現の発見と個性を感じさせる。	①	A					
	英語	自発的、継続的学習を目指す。	授業重視の学習指導に加え、予習、復習、週末課題、小テスト等をおして自ら学ぶ姿勢を養い、継続的な家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。	①⑬	A	A	・コースに応じた授業展開の実施、家庭学習の習慣化、基礎学力の定着を引き続き目指す。 ・英検や一般入試対策の実施 ・ICTを活用した組織的・継続的な指導法の研究、確立と共通理解			
		基礎学力の定着からさらに実力の養成を図る。	ICTを用いて授業内容を工夫・改善し、生徒がわかりやすいと実感できる授業を行う。毎時間、生徒が学習内容を振り返り、深く理解する機会を設ける。	⑬⑭⑮	B					
		大学進学可能な学力向上を図る。	継続的な課外指導等を含めて３年間を見据えた計画的な指導を組み立て、大学一般入及び学校推薦型、総合型選抜入試に対応した指導を行う。	②③	A					
※評価基準		A：大変よくできた。 B：よくできた。 C：やや不十分。 D：不十分								

評価項目		具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	関連項目	評 価		次年度（学期）への主な課題
教科	家庭	意欲を喚起する学習指導を実践する。	生徒の興味・関心を引き出し、知的好奇心を喚起する学習内容を工夫する。	①⑬	A	A	・Wifi環境を整え、被服室でICTを効果的に使用して授業を展開する。 ・生徒が生活における課題を自ら考え、解決方法を探り、発表を行う授業を実践する。
			身近な生活課題に目を向けさせ、主体的・対話的に取り組める学習展開を工夫する。	①⑬	A		
			ICT機器を効果的に活用した授業を展開する。	⑬⑭	B		
		科学的な理解と技術の習得を図る。	体験的に学びながら生活を科学的にとらえられるように、実験・実習を効果的に行う。	①⑬	A		
			基礎的・基本的な生活技術を習得できるようにする。	①	A		
		生活の場における課題を解決する実践力を育成する。	生活の中にある課題からテーマを設定し、課題を解決する方策をえ発表させる学習を展開する。	①⑬	B		
	工業	単位制総合学科高校に適した工業科の教育課程を実現する。	1年次の分野紹介における丁寧な説明と「分野基礎」の実施を通し、専門課程を熟知した上での分野選択を実現するとともに、生徒の適正人数の確保に努める。	②⑤	B	A	・専門課程を熟知した上での分野選択については概ね実現できているが、適正人数確保は達成できているとは言い難い。 ・タブレット端末の活用について、授業の特性や教室環境を鑑み、適宜活用できるよう模索してい。
			1・2年次の授業で、「情報数理基礎」「工業技術基礎」の内容を補い、基礎力の向上及びものづくり教育を推進する。	①②	A		
		各種資格・検定指導を充実させ、ジュニアマイスター育成に努める。	国家資格「工事担任者」「ボイラー技士」については授業において積極的な指導を行うとともに課外指導を行う。資格取得率80%以上を目標とする。また、その他資格・検定においても適宜課外指導を行い、ジュニアマイスターの育成に努める。	②⑤	A		
		時代の要請に適応した専門知識をもつ高校生を育成する。	ネットワーク技術やロボット・制御技術、及びCAD・CAMなどの先端技術を取り入れた授業と実習を行い、作品や成果にもとづいた進路実現を図る。	②⑤	A		
			レポートやプレゼンテーションの指導を各授業に取り入れ、今日の技術者として必要な表現力を育てる。	①②⑤	A		
		教員の専門性（校外研修等）の向上を図る。	①②	B			
		生徒の多様な進路志望に応えるとともに、「ものづくりはひとつくりに」の観点から社会で活躍する技術者の育成に努める。	総合学科の特性を生かし、大学、専門学校、就職のいずれをも視野に入れた指導を行い、生徒の希望進路実現を図る。	②⑤	A		
			将来、社会で活躍できる技術者の育成を念頭に、学力、技能ならびに安全や技術者としての倫理等について継続的な指導を行う。	①②⑤⑦	A		
	商業	ビジネス分野に興味・関心を持たせ、主体的に学習に取り組む態度を育てる。	わかりやすい授業の展開により商業科目に興味を持たせ、自ら学ぼう姿勢を育て確かな知識を身に付けさせる。	①②	A	A	・ICT機器の活用機会を増やす。タブレット端末を利用した授業展開を考える。 ・新科目の指導力向上を目指して、授業研究を積極積に行う。
			ICT機器を利用した授業の構築や授業研究を通して、授業改善を行い、主体的・対話的な深い学びの実現に向けた指導力向上に努める。	①⑬	B		
		ビジネスにおける実践力の育成を図る。	社会的責任を担う職業人として必要なビジネスマナー及びコミュニケーション能力を育成する。	④	A		
		資格指導を充実させ、進路選択の幅を広げる。	自ら目標を掲げ、積極的に取り組み成長できるよう指導を行う。	①	A		
日商簿記検定2級、ITパスポート等の上級資格取得を目標とした課外指導を行う。			①②	B			
資格取得を通して実践的な学力を養い、希望進路を実現する。			②	A			
情報		情報社会に興味・関心をもたせ、自ら学び自ら考える姿勢を育てる。	文書作成、表計算、プレゼンテーション、情報収集などの実習を行い、情報活用能力の向上を育成したうえで、自ら設定した課題を解決するような題材を扱い、問題解決のための思考力・判断力・表現力を育成する。	⑦⑧	B		
	1年次はオンラインコンテンツや外部教材等を活用し、大学入試を視野に入れた授業を実施して知識の定着や学習意欲の向上を図る。3年次にて課外授業を実施し、実践的な問題演習等を通して大学入試に対応できる力を育成する。		①⑭	A			
	効果的にコミュニケーションを行う能力を伸ばし、積極的に情報社会に参加する態度を育てる。	情報社会の影の部分を理解させ、社会における情報モラルの問題や社会問題について考えさせようとして、グループワークなどを通して他者と協力して問題解決するための態度を育てる。	⑬⑮	A			
※評価基準		A：大変よくできた。 B：よくできた。 C：やや不十分。 D：不十分					

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	関連項目	評価	次年度（学期）への 主な課題	
教 務	総合学科の特色を活かし、多様な進路希望に対応するための教育課程の編成と運用を行う。	単位制総合学科としての利点を生かし、将来の社会情勢に対応できる能力を身に付けられるような体制を整備する。 「教育課程検討委員会」・「年次会」・「教科会」等において研究や検討を深め、よりよい教育課程の編成、運用を行う。	②⑥⑧ ⑬	B	・部員の先生方の協力により、多岐にわたる教務の業務を概ね問題なく遂行することができた。また今年度新たに公式インスタグラムを開設し、広報活動を充実させるきっかけをつくることができた。次年度への課題として教育課程の見直しやさらなるICT活用等があるので、他部署と連携を取りながら改善を心がけていきたい。	
	生徒情報の管理と適正な運用を行う。	教育支援システム「教助」を有効活用することにより、生徒情報を適切かつ効率的に管理する。生徒の欠課数や成績不振科目等の把握に努め、各教科・年次・担任と連携し、個々の生徒の指導や学習活動の充実に寄与する。	⑤⑥⑩	A		
	広報活動の充実を図る。	ホームページ・学校案内（スクールガイド）等を充実させるとともに、SNSも活用して本校の情報を発信していく。 学校公開・学校説明会等の更なる充実を図り、より多くの入学志願者の獲得を目指す。	⑨⑩	A		
	学校全体として業務の精選・簡素化を行い、職員が生徒に向き合う時間を多く確保できる環境を作る。	ICT機器を活用した業務の効率化を図り、授業づくりや個別指導に充てる時間を作る。 授業研究や研修の機会を提供し、職員がタブレットや電子黒板を当たり前に活用するための研修の機会をなるべく多く作る。	⑩⑪⑬	A		
	生徒の学習活動を積極的に支援し、学力向上に努める。	特別時間割・考查時間割等の早期の編成と適正な運用を行い、よりよい学習指導計画の立案、実行に寄与する。 大学入試制度の変化に適切に対応し、進路指導部と連携してよりよい進路実現ができる態勢をつくる。	①②③ ⑧⑭	B		
	教務部の活動を活性化し教育活動の円滑化を図る。	ICTを活用し、教務部内の各担当部署の効率的な運営と部署間の連携を密にする。 定期的に話し合いや情報共有の場を設け、各係の業務がスムーズに進行するよう務める。	⑥⑩	A		
生徒指導	基本的生活習慣の確立	身だしなみとマナーに係る段階的指導を継続的に実施し、頭髪・服装の適正化を図ることやマナーの向上を目指す。	④	A	・今年度取手警察署と連携の上、間バイトに関する講話を実施することができた。来年度実施するか相談して決めていきたい。 ・学校に寄せられる苦情では駅ビルでの過ごし方や電車の乗車マナーなどについてご指摘を頂きました。全校集会などで生徒全体に指導を行うとともに各担任や部活動の顧問からの指導を行いました。引き続き指導を徹底できるようにしていきたい。	
		登下校指導で挨拶の重要性を理解させ、日々の遅刻指導と月間遅刻指導で遅刻者の減少を図る。	④	A		
	自己指導力の育成	学校行事や部活動等を通して、その場面でどのような行動が適切か、自分で考え実行する能力を身につけさせる。	④⑤⑦⑨	B		A
	事故や問題行動の予防、いじめ根絶	学校活動や講演会を通して教員が積極的に働きかけ、リスク予測やリスク回避能力を身につけさせ、事故や問題行動の未然防止に努める。また、学校生活アンケートを実施し、生徒の不安や悩み、学校に対する要望を聞く機会を設ける。	④⑤⑥⑦	A		
	保護者・地域・関係諸機関との連携	家庭との連絡を密にして、校則等の遵守に協力を依頼する。	⑤⑥	A		
		地域住民や関係諸機関と連携して校外における生徒のマナー指導を行う。	⑥	B		
地域の青少年相談員や幼小中学校・警察との情報連携を図る。		⑥	A			
進路指導	希望進路の実現	3年間の段階的な進路指導体制を強化し、年次・教科等と連携を密に図って生徒一人一人が目標とする進路実現を積極的に支援する。	④⑤	A	・各年次の先生方のご協力により、急速に変化する進路環境に概ね対応することができた。 ・大学入試のさらなる多様化に対応するよう、特に学校推薦型や総合型の情報を迅速で正確に収集し提供することが不可欠。	
		生徒・教員・保護者のニーズを把握し、進路に関する資料や情報等を迅速に的確に提供する。	④	A		
		企業やハローワーク等の外部機関と連携しながら、就職希望者に適切な情報を提供し、就職内定率100%を目指す。	④	B		
	進路指導体制の強化	一般選抜および学校推薦型選抜（指定校制・公募制）・総合型選抜等の選抜方法を研究し、総合学科の特色や生徒の適性・個性を活かした体系的な指導を充実させ、志望する大学等に合格できるよう支援する。	①⑤	A		A
		年次の段階に相应し課外や模試等のあり方を議論し、効果的に実践することで生徒の学力向上を図る。	⑤	B		
		朝学習や週末課題を通し自主的な学習習慣を促し、毎日の学習記録で自ら日常生活を見直すことで家庭学習の定着を図る。	②	A		
	キャリア教育の充実	「産業社会と人間」や「総合的探求の時間」の授業を核として横断的・総合的な学習を行うことで、キャリア教育の充実を図る。	⑥⑧	A		
		ボランティア活動・インターンシップ等に積極的に参加することにより、適切な職業観や勤労観を育む。	⑥⑧	B		
※評価基準 A：大変よくできた。 B：よくできた。 C：やや不十分。 D：不十分						

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	関連項目	評価	次年度（学期）への 主な課題
特別活動	ホームルーム活動の活発化と、豊かな心の育成	ロングホームルームや学校行事などの場面を通し、集団生活の充実と向上を促す。	②④	B	○ 各学校行事で、さらに生徒の主体的な活動の機会を設けたい。 ○ 生徒会活動や部活動で、より生徒主体の活動となるよう、予算の確定・執行をさらに円滑、迅速に進められるよう努めたい。 ○ 行事のあり方や、適切な部活動運営のため、部がイニシアティブを取って校内で議論を深め、より良い特別活動の実現を目指したい。
		「道徳」・総合的な探究の時間等を中心に、学校生活のあらゆる場面で豊かな心の教育が行えるように努める。	④⑥	B	
	生徒会活動の充実	生徒会を中心とした生徒による自治活動を支援し、学校行事における生徒の主体的な取り組みを促す。	④⑧⑨	A	
		各年次やホームルーム・地域との連携を図り、よりよい学校生活が過ごせるよう工夫する。	⑧	B	
		新入生を対象とした部活動紹介や活動報告の広報を通じ、学校生活を送る上で重要な役割を果たす部活動の活性化を図る。	⑨	A	
保健	生徒の生活習慣と心身の健康の確立を図る	健康診断や身体測定の結果を有効に活用し、自ら健康管理に対する意識を高めさせる	⑥	A	・地震や台風などの自然災害の際に慌てず安全に行動できるように防災訓練時にも緊張感を持って臨む。可能であれば、2回実施する防災訓練の1回目は例年通り避難経路の確認を重視し、グラウンドへ避難。2回目は実施する日付のみ生徒に提示し、災害時と同じように体育館へ避難する。 ・清掃用具がかなり古くなってきているので、ほうきの穂先が曲がったり、開いたりしている物は速やかに交換する。建物の構造上、廊下や階段にほこりが溜まりやすいので意識をしてほこりを取り除くようにする。
		各種感染症・伝染病の予防について検温や消毒等自己管理できるようにし、生徒の体調の把握に努める	⑥	A	
	安全教育の実施	緊急時の避難訓練を含む防火訓練を実施し、防災意識の涵養に努める	⑥	B	
	教育環境の整備	生徒の衛生的な教育環境を確保するとともに、清掃活動の指揮を徹底する。	⑥	B	
	思春期の心の育成と豊かな感性を養う	生徒が日常的にカウンセリングを気軽に受けられる体制をつくる	⑥	A	
		より豊かな成長の確立を目指し、自らの心と体に主体的に向き合えるよう講演会で情報を提供する	⑥	A	
渉外	PTA活動の助成 保護者と教職員が協力して、生徒の健全育成を図り会員相互の研修や親睦を深める。ICTを活用し、渉外部職員の共通理解を図るとともに、業務の効率的かつ合理的な運営を目指し、タイムパフォーマンスを向上させる。 関東高P連の発表校として成功させる。 全国高P連茨城大会を成功させる。	会員保護者との連絡手段としてまちcomiメールの利用や会議の出欠席集計にGoogleフォーム利用などICT技術を積極的に取り入れ、ペーパーレス化による業務の効率化を図る。また、教職員間においても、クラスルーム等を連絡ツールとして活用し、共通理解をもって、効率的な運営取り組む。	⑧ ⑩	A	令和6年度は、PTA役員を希望制としたことで、生徒指導委員がゼロであった。しかしながら、本部役員・各委員を希望者とするスタンスを今後も継続していきたいと考えている。委員が不在の場合は、PTA役員に協力を依頼、本部役員が担い、あるいは中止等を判断しながら進めていきたい。 ・研修委員の名称が、現在活動している内容にそぐわないため、委員名を変更することを検討している。年度末の運営委員会と呼びかけ、次年度の変更に向けて進める。 ・PTA総会の日程を午前中とする案を次年度のPTA総会で承認願う。 教員・保護者の働き方改革を進めるとともに、PTA事業のスリム化を図っていきたい。
		会員にとって有益事業を企画・立案・実施に協力して調整を図る。（全体PTA事業・年次PTA事業の開催）	⑧ ⑩	A	
		PTA会員の希望制を推進させる。また役員選出の方法について、改善点をさらに模索する。	⑧	A	
		PTA本部役員、教職員と連絡を密にし、関東大会、全国大会を成功させる。	⑧	A	
	同窓会活動の助成 同窓会活動が本校発展に寄与できるよう連携を図り協力する。	同窓生の人的財産を有効活用し、在校生徒へ還元する事業と会員同士が情報交換に充実感の向上に協力する。	⑧	A	
		組織づくりの充実を進め、課題や問題解決のためその原因と方法を積極的に議論を進める。	⑧		
図書館	生徒・教職員の図書館利用を活発化させる。	新刊や話題書、新聞、雑誌類をタイムリーに提供できる体制を作り、社会の流れに即した図書館の構築を目指す。	⑧	A	○進路関連の書籍で、一部更新が不十分なものがあった。国家資格等については随時確認したい。 ○調査前等、定期的に利用する生徒が増えた。 ○総探で利用する時間については、年次やクラスごとで調整が必要である。 ○「読み聞かせボランティア」は保育園側からもおむね好評であった。参加した生徒も、充実感・達成感を得られたようである。
		大学入試や就職試験等、生徒の進路実現につながる図書や資料を充実させ、情報収集力を育成すると共に知識の向上を促す。	①③	A	
	本校の学習活動・教育活動を支援する。	図書館及び所蔵資料を利用した授業が実施しやすいよう支援し、且つ、生徒の自学自習の場としての環境を充実させる。	①	A	
		生徒の居場所としての役割を果たし、必要に応じて個別に対応する。その際は担任や年次、もしくは教育相談部・保健部とも連携を図る。	⑥	B	
	図書委員会活動の強化を図る。	DVDなどの視聴覚教材を取り入れた授業が行える環境を整え、産社や総探の時間での活用も提案する。	⑪	B	
		図書委員としての役割を認識し、各自の責務を果たすよう指導する。また、全体で関わる学校行事だけでなく、担当を決めての企画運営を行わせる。	⑧⑨	B	
※評価基準	A：大変よくできた。 B：よくできた。 C：やや不十分。 D：不十分				

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	関連項目	評価	次年度（学期）への 主な課題
教育相談部	心の問題を抱えている生徒の早期発見と適切な対応を行う。	担任や年次と常に情報を共有しながら。必要があれば支援体制を整え、外部機関との連携をはかる。	⑤⑥	B	次年度の課題として、情報共有を重視し、生徒、保護者、教員への支援を強化します。また、ウェルビーイングに関する知識を深めるため、通信や研修を通じて情報を発信し、心身ともに健康な学校生活をサポートする体制を整えていきます。
		生徒が前向きに学校生活を送れるような環境づくりに努め、必要とされる様々な情報を提供する。	⑤⑥	A	
		カスクールカウンセリングを通して、生徒、保護者、教員への支援に努める。	⑥	A	
	スクールカウンセラーおよびスクールソーシャルワーカーの効果的な活用および、保護者や教員との連携について支援する。	スクールカウンセラーとの円滑な情報共有を図り、スクールカウンセリングの有効活用を促す。	⑥	A	
		職員対象の研修会を企画し、スクールカウンセリングに対する知識と理解を深める。	⑥	A	
		スクールソーシャルワーカーとの円滑な情報共有を図り、問題を抱える生徒の環境調整を図る。	⑥	A	
情報部	校内情報システムの円滑な運用	ネットワークサーバーや各教室のパソコン、ノートパソコン、タブレット、電子黒板の管理を徹底し、校内のハードウェア環境を整える。	⑩⑪	B	●端末の設置場所や使用状況、IPアドレス等の把握が出来ていないところがあったため、PC利用状況調査を分担して実施し、端末の管理運用に繋げていきたい。 ●パスワードを忘れてしまった生徒が20名前後だったため、パスワード設定時に写真を添えて管理するよう促していきたい。 ●Googleworkspaceの職員の活用状況に差があるため、情報部主催のICT教育推進研修会を実施し、各教科の取り組み事例や校務DX化について推進していきたい。 ●教助の転入学、編入学の処理について、処理の手順書を作成し、処理が滞らないよう
	教育情報ネットワークの利用と連携	教育情報ネットワークの利用について情報を提供し、授業、HRの充実のため教職員と連携を図る。	⑩⑪	B	
		教助の設定、管理を行い、授業評価が円滑に進むようにする。	⑩⑪	A	
	外部への情報発信	ホームページを充実させ、広報としての役割を担うとともに、生徒の学校生活の相互理解をサポートする。	⑨⑩	A	
		マチコミメールの登録、運用について情報提供し、滞りなく活用できるよう管理する。	⑩	B	
1 年 次	基本的生活習慣の確立	高校生として規律ある行動をとるよう促し、身の回りの整理整頓や時間厳守など、集団の一員であることの自覚を身につける。	⑥	A	・学習習慣の定着が不十分な生徒がいるので、年次全体での基礎学力の定着を目指して学習習慣を身に付けることを推進していきたい。 ・多様な進路選択の中から、自分の進路を自分で決める力を身に付けさせたい。 ・次年度の修学旅行のために、集団生活のルールやマナーを守ること、基本的な生活習慣を身に付けることを継続して指導していきたい。
	学習習慣の定着と学力の向上	日々の授業を大切にし、意欲的に学習に取り組む姿勢を育む。	①②	B	
		授業改善プロジェクトに扱い、生徒の実態に応じた授業や課外の在り方を考え、主体的、対話的な学びを実践する。	①③⑤⑥	B	
	個に応じた進路選択	分野別の学習内容および自分自身の適性について理解を深めさせ、総合学科の特色を生かした進路選択を提案する。	①②	A	
		進路についての情報や学習に対するアドバイスを積極的に提供し、個人の特性・希望にあった進路の方向性を見いだせるよう支援する。	②④⑤	A	
	特別活動への積極的な参加	部活動や特別活動への参加を促し、個人の能力の向上と学校の活性化につなげる。	⑧⑨	A	
	H・R、行事、委員会、ボランティア活動を通して心の教育を推進し、学校生活の充実を図る。	⑧⑨	B		
2 年 次	自己実現のための確かな学力や広い視野の育成	日々の授業の重要性を意識させ、課外授業やICT機器等を活用しながら学習に取り組ませる。	①②③	A	・オンライン学習サービスや進路ガイダンス等を活用し、年次生徒全体の学力やモチベーションの向上に努める。 ・盗難に遭わないよう防犯意識を高めさせる。 ・全員の進路実現をめざす指導と同時に、トラブルなどの生徒の様子に気を配り、心のケアにも努める。 ・主体的な学校行事への参加を促したり、教室での雰囲気づくりを工夫したりしながら、高校最後の一年を充実して生活してもらうよう努める。
		早期の進路希望決定に向けての支援を行い、進路実現に必要な能力の向上に努める。	③⑦⑧	A	
	基本的生活習慣の確立	規則正しい生活を心がけ、夜更かしや深夜の外出は控えるよう指導する。	④⑤	B	
		時間を厳守し、学校に遅刻をしないことや提出物は期限内に必ず提出するよう指導する。	④⑦	B	
	校則の順守と積極的な挨拶の推進	自分勝手な行動を慎み、他人の気持ちを考えて行動するよう指導する。	④⑤	A	
		先生方や来客に、笑顔で元気よく挨拶できるよう指導する。	④⑧	B	
	職員同士や保護者との連携	ICT機器等を活用しての情報共有を徹底し、生徒対応に差が出ないよう職員同士の連携を密にする。	⑥⑩	A	
		保護者との連携を密にし、本校の指導に対して理解と協力をさせていただくよう努める。	⑩	A	
3 年 次	希望する進路の実現に向けた指導の徹底	希望する進路を実現するために必要なものを整理させ、計画的な学習をすることができるよう指導に力を入れる。	①③	A	・進路指導部や保護者との密な連携により、生徒の進路実現の支援をすることができた。教育課程が変わり、共通テストの受験教科が変更された中で、やや混乱する場面が見受けられた。進路指導部を中心に改めて変化した内容の理解に努める必要があると感じた。 ・進路決定後に目的意識が低下し、学校生活への意欲を失ってしまう生徒が見られた。真面目に取り組んでいる生徒への影響もあることから、卒業までしっかりと高校生活を送ることができるよう指導することが大切であると感じた。 ・精神面や進路に不安を抱え、欠席が増えた生徒が見受けられた。教育相談部と連携を図り、担任だけではなく、学校全体として支援をしていくべきである。
		生徒と密にコミュニケーションを図り、希望する進路を実現することができるよう様々な角度から生徒をサポートする。	②③	A	
	社会人としての能力向上や意識の醸成	成人する自覚を持ち、自分勝手な行動を慎み、他人の気持ちを考えて行動できるよう指導に力を入れる。	④⑤	B	
		経済や社会情勢に目を向けるよう指導し、自分も社会の一員であることに自覚を持たせる。	⑦⑧	B	
	健康的、計画的な行動の徹底、学習効率の良い環境づくりの促進	スマホの使用などに時間を割き過ぎず、時間を意識した行動をさせる。	④	B	
		身の回りの整理整頓を習慣づけさせ、学習効率の向上を図る。	④	B	
	職員同士や保護者との連携	ICT機器等を効果的に活用して情報を共有し、生徒対応に差が出ないよう職員同士の連携を密にする。	⑩⑥	A	
		保護者との連携を密にし、本校の指導に対して理解と協力をさせていただくよう努める。	⑥	A	
※評価基準	A：大変よくできた。 B：よくできた。 C：やや不十分。 D：不十分				